ふみびと

第２１６号
発行所
文通村事務局
編集　広報部
千葉県成田市

出会いという日常の奇跡

魔法のような

「数字」というものに皆さんはどんなイメージを持っているでしょうか。

無機質なもの。それともロマンチックなもの。もしロマンチックなものと思っている方がいたら、その方はきっと今までに「素敵な数字」に出会っているのでしょう。

今回はそんな「素敵な数字」をご紹介したいと思います。

以前、とあるテレビ番組で紹介されていたのですが、９９％失敗するような困難な挑戦でも４５０回ほど続けると失敗する可能性はわずか１％になるそうです。

気の遠くなるようなちょっと信じがたい内容ですが、失敗に挫けそうなときに支えになってくれる数字かもしれませんね。

また、以前にもご紹介したことがありますが、全世界７０億人の人と一人一秒ずつ出会ったとしたら、全ての人に出会うのにかかる時間は２２０年にもなるそうです。ちなみに一人の人が一生の間に出会える人は、数万人程度といわれています。

７０億人のうち、出会うことのできる０．００１％程の僅か数万人。その数万人もの人（矛盾する言い方ですが）との出会いの中で特に大切な数十人の人との出会いというのは最早ピンとこないほどのわずかな確率です。

当たり前のように感じている大切な人との出会いは数字にすると、とても奇跡的なものに感じられるものです。

数字は物事をよくも悪くもはっきりさせてしまうもの。

何でも数字に変えてしまうと夢がないかもしれませんが、普段意識しない奇跡を目で見ることのできる魔法のようでもあります。

皆さんの日常にある何気ない出来事に魔法をかけてみてはいかがでしょうか。きっと素敵な奇跡が隠れていると思います。

言葉の奥深さ

文章を書くと、何気なく使っている言葉の奥深さに気づくことができる。例えば「いつも」という意味を伝える時にも、「常々」「終始」「四六時中」など様々な表現があるが、どれを使っても意味は通じる。しかし、それぞれ雰囲気や与える印象はちがうのだ。選んだ言葉の中に、感情や思いやその人自身が現れる。これは日本語に限らない。英語のＦａｌｌとＡｕｔｕｍｎ。どちらも「秋」を表し、「どちらを使えばいいの？」と混乱したことのある方もいるだろう。調べてみると、Ｆａｌｌは日常の場面で、Ａｕｔｕｍｎはフォーマルな場面で使われることが多いという。同じ「秋」でも、英語圏の人にとっては、受ける印象がはっきりとちがう。言葉の奥深さは、世界共通なのだ。ぜひ、言葉ひとつひとつを確かめるように文章を書き、言葉の可能性を楽しんでみてほしい。

風にゆられて誰かに届け！ 風船便

いつでも誰でも参加できますが、風船便の受取は新規の方へ優先されます。

誰に届くかは風次第…。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あとは、事務局宛の返信用封筒に同封下さい。今までにない交流の始まりです。

次回発送日

11月の発送日

11月の発送は、各回とも通常通り（15日、30日）です。送りたいお手紙がある場合には、発送日の**2日前**（13日、28日）までに事務局に到着することを確認の上、ポストに投函してください。

お知らせ

メモ機能追加

会員様ページの「ふみ友リスト」内で、ご要望の多かった「メモ機能」を追加いたしました。この機能を使用すれば、今までよりもずっと文通相手の情報を整理しやすくなるはずです。ぜひご活用ください。